新キャンパス、防災拠点にも　関大、JR高槻駅前に　／大阪府

朝日新聞　2010.02.25　大阪地方版／大阪　35頁　大阪市内　写図有　（全473字）

JR高槻駅前に完成した関西大学高槻ミューズキャンパス＝写真＝は、一貫教育の小中高生や大学・大学院生も学ぶ教育拠点になると同時に、市中心部では希少な防災拠点ともなる。総工費は約243億円で、高槻市は「社会貢献」機能を考慮し、施設整備費に約11億5千万円、運動場用地費に28億5600万円を支援する。

24日に完成を記念して開かれた式典には関係者ら約330人が参加し、キャンパス内を見学。上原洋允（よういん）理事長は、小学生から大学院生まで同じ場所で教育ができる点について「大きな可能性を秘めたキャンパスだ」とあいさつした。

キャンパスは4月1日に開校し、大学で新たに防災や減災、危機管理について文系と理系の両面から研究する「社会安全学部」（定員250人）を開設。学部長に元京都大防災研究所長の河田恵昭氏を迎える。施設内には、防災拠点として、非常用食糧や毛布などの備蓄倉庫、プール用水を飲料や生活用水に再利用できる浄化システムなどを備えた。グラウンドは被災時に緊急避難場所として開放。通常時も生涯学習センターや図書館などは市民も利用できる。（坪倉由佳子）

朝日新聞社

本サービスにおける著作権および一切の権利は株式会社ジー・サーチまたはその情報提供社に帰属します。
本サービスの出力結果を複製、複写、出版、販売または第三者に対し配布することは禁止されています。

竣工特集・関西大学高槻ミューズキャンパス

建設通信新聞 2010.02.24 建設通信新聞（全3,084字）

◆類例のない総合教育施設誕生

21世紀にふさわしい新たな教育の実現を目指し、関西大学がJR高槻駅北東地区で建設を進めていた「関西大学高槻ミューズキャンパス」が完成し、きょう24日、現地で竣工式を迎える。小・中・高の一貫教育に大学と大学院も備えた新しい「知の拠点」としてキャンパスを位置付けている。また、地域の防災拠点として災害時には緊急避難場所の役割を担い、地域の生涯学習の拠点としても機能する「社会貢献型都市キャンパス」となる。設計は創美設計・竹中工務店、監理は創美設計、施工は竹中工務店が担当し、災害にも強い高品質なキャンパスを完成させた。

【社会の期待に応える「知の拠点」に／学校法人関西大学理事長 上原洋允】

本法人が2008年から取り組んでまいりました「2010プロジェクト」のひとつである「高槻ミューズキャンパス」が、今年4月の開設に向け、竣工の運びとなりました。竣工に際して、まずは、設計・監理、施工をご担当いただきました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

本キャンパスには、本学124年の歴史上、初めて設置することとなる小学校（初等部）をはじめ、中学校（中等部）、高等学校（高等部）、社会安全学部、大学院社会安全研究科を設置いたします。これら初等教育から高等教育に至るすべての学校がひとつの建物内に揃うのは、全国でも珍しいことでありましょう。

具体的には、初等部、中等部、高等部の校舎となる東館、大学、大学院の学舎となる西館、そして体育、厚生の共用施設となる北館の3棟から成ります。東館と西館は渡り廊下で結ばれますが、相互のアクセスには一定の制限を設け、安全面に配慮いたします。また、西館には、市民に開かれた「関西大学児童図書館」や「生涯学習センター」なども設置されます。

これら充実した施設を利用し、教育面においては、「小中高12年一貫教育」をはじめとした設置学校間の有機的連携を図り、総合学園ならではの強みを存分に生かしてまいる所存です。さらに、キャンパスを「防災の拠点」として位置付けるなど、社会的責任をも果たしてまいります。

同キャンパスが、本学の新たな「知の拠点」となり、社会の各方面から寄せられる期待に応えられるよう、一層の充実に努めて参ります。

【設計メモ／随所に異世代間交流の場】

JR高槻駅北東地区開発事業の一部である関西大学高槻ミューズキャンパスは、一つの建物に、初等部、中等部、高等部、大学、大学院、生涯学習センターが入る、他に類を見ない総合教育施設です。

13階すべてが異なる平面プランを持つ約5万3000m2の校舎には、各棟を結ぶ外部デッキや光を取り込むテラス、遊び場としての階段など、随所に異世代間コミュニケーションを誘発する場を設けました。長い年月を過ごす子供たちのために、日本の伝統色を基調とし、各階で異なるフロアカラーを持つ、変化に富んだインテリア空間を創出しています。

高槻市の提唱する「安全・安心のまちづくり」に貢献するため、グラウンドやアリーナが地域の防災拠点となっています。受電方式の多重化、非常用発電機としても利用可能なコージェネレーション設備、プール用水浄化システム、非常用の食糧・備品をストックする備蓄倉庫など、様々な設備が避難所としての機能をバックアップします。

また、児童図書館やコンベンションホール、レストランをはじめ多くの施設が一般開放されるとともに、生涯学習センターから発信される各種プログラムにより、大学から市民への知の還元も実施されます。

電池工場であった敷地を**キャンパス**へ転換することは、地球と地域の環境再生につながります。風力・太陽光発電、雨水利用、クールチューブ、LED照明、屋上庭園、学習園、ビオトープや、80もの樹種をもつ緑地など様々な環境配慮の技術は、教育の場でも生きた教材として活用されることが意図されています。

【施工メモ／CFT柱、制振構造で安全性向上】

JR高槻駅北東地区開発事業の先頭を切る工事ということもあり、周辺道路の整備と並行する形で建設工事をスタートさせました。2008年11月に着工し、09年7月の躯体工事完了を経て、内装・外装工事に着手しました。

施設は、高槻市の防災拠点として位置付けられていることから、校舎棟に充填型鋼管コンクリート柱（CFT柱）を採用し、竹中式座屈補剛ブレースを各所に配置する制振構造により、地震時の安全性を高めています。

一方、体育・厚生棟は4階の梁の一部にプレストレストコンクリート（PC）造を採用することでプールという大空間の上階に体育館床を構築しています。このほか軽量コンクリートを用いた合成床版やスパンクリート合成スラブも採用しています。

仮設工事では、高層の校舎棟は南北に200t規模のタワーフロントを1基ずつ配置し、鉄骨建方、外装のPCa版取り付けなどを実施しました。体育・厚生棟は東西に100tと150t規模のタワーフロントを据え、躯体工事、大屋根の鉄骨関係を据え付けました。

設備面では、地域の防災拠点としての設備機能を確保するため、インフラ設備の充実を図りました。信頼性の高い特別高圧受電（2回線）と、特別高圧受電とは別供給ルートでの高圧受電を行いました。さらに、停電時はガスコージェネレーション発電機により、防災設備の電力供給が可能なシステムを構築しました。

安全面では、JR高槻駅北東地区全体で安全かつ円滑に施工を進めるため、同地区開発の事業主体で構成するまちづくり協議会の下部組織となる施工業者により工事安全協力会を設置し、工事の運営や調整にあたりました。作業所では「無災害　みんなで守る地域の笑顔」をスローガンとして掲げ、安全衛生活動を積極的に推進しました。

開発事業では、環境影響評価を実施しており、施工時の条件が厳しく決められました。車両の運行ルートや運行時間、車両台数に制限がかけられたため、工区を細かく分割した上で綿密な工程管理に努めました。

１月末時点の延べ労働時間は約１０４万時間で、現場での作業員は１日あたり平均で５００－６００人、ピーク時には７５０人が作業にあたりました。

小学校から大学院までが一つの建物内に入る注目度の高い教育施設であり、地域の発展にもつながる施設の工事を無事に完成することができ、うれしく思っています。

（竹中工務店大阪本店総括作業所長　藤井政継、作業所所長　安藤幸一）

【工事概要】

▽工事名＝**関西大学**高槻**ミューズキャンパス**新築工事

▽建設地＝大阪府高槻市白梅町７番１号

▽建築主＝学校法人**関西大学**

▽設計＝株式会社創美設計・株式会社竹中工務店

▽監理＝株式会社創美設計

▽施工＝株式会社竹中工務店

▽敷地面積＝１万７５８４．０１m2

▽建築面積＝７７５９．１４m2

▽規模＝東館・西館Ｓ造１３階建て塔屋１層、北館ＲＣ・Ｓ造４階建て総延べ５万３０３３．９６m2

▽建物高さ＝東館・西館５５．７８m、北館２５．５８m

▽工期＝２００８年１１月１２日－１０年２月２４日

▽東館・西館外装＝柱・梁形１００角せっ器質タイル打込ＰＣａ板、外壁５０二丁磁器質タイル

▽東館・西館屋根＝陸屋根、アスファルト防水

▽北館外装＝柱・梁形１００角せっ器質タイル、外壁５０二丁磁器質タイル一部１００角せっ器質タイル

▽北館屋根＝塗装アルミ亜鉛合金メッキ鋼板、折板葺きはぜ形

《写真説明》

関西大学ミューズホール

１３階中庭

茶室「高妙軒」

初等部オープンスペース

室内温水プール

アリーナ

日刊建設通信新聞社

本サービスにおける著作権および一切の権利は株式会社ジー・サーチまたはその情報提供社に帰属します。
本サービスの出力結果を複製、複写、出版、販売または第三者に対し配布することは禁止されています。

関大予定地で土壌汚染　付属小など建設構想　高槻の工場跡 【大阪】

朝日新聞　2006.02.10　大阪朝刊　38頁　2社会 （全421字）

大阪府高槻市白梅町の旧ユアサコーポレーション高槻事業所跡地（約3万8800平方メートル）から、国の環境基準を最大800倍上回る鉛などの有害物質が検出されたと9日、跡地を管理している「ユアサ開発」が発表した。跡地の一角には、関西大学（大阪府吹田市）が新キャンパスの建設を計画している。同大学広報課は「土壌汚染は想定しており、建設計画は変更しない」と話している。

同社によると、同事業所では、1919年から昨年3月まで鉛電池が製造されていた。05年7月に閉鎖された後、土壌汚染対策法に基づく調査をしたところ、跡地の93%で鉛、フッ素、ホウ素など6種類の有害物質のいずれかが基準値を超えて検出された。

今のところ、周辺への流出や健康被害は確認されていないという。同社は07年度末までに汚染部分を除去する。

関西大は、跡地内の東側約1万平方メートルに、幼稚園や小中高校、大学院などが入る30階建ての高層ビルを建て、09年4月にも開校する構想を発表している。

朝日新聞社

本サービスにおける著作権および一切の権利は株式会社ジー・サーチまたはその情報提供社に帰属します。
本サービスの出力結果を複製、複写、出版、販売または第三者に対し配布することは禁止されています。